

令和2年度 第2回小松市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和3年3月26日(金)
開会 午後4時 閉会 午後5時

2 会 場 小松市役所3階3B応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司(議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦

委 員 吉原 慎吾

委 員 北村 嘉章

委 員 中惣 恭子

委 員 勝木 克子

(事務局関係)

総合政策長

高田 哲正

総合政策部 国際&経営政策課主査

井出 称子

総合政策部 国際&経営政策課主査

松本 一穂

教育委員会事務局 教育次長

吉田 和広

教育委員会事務局 シニアマネージャー

道端 祐一郎

教育委員会事務局 未来の教育課長

表 久美子

教育委員会事務局 教育庶務課長

東谷 勝美

教育委員会事務局 教育庶務課専門官

唐木 和也

教育委員会事務局 学校教育課長

廣田 恵子

教育委員会事務局 青少年育成課長

山口 和博

4 討議事項 ・令和3年度の教育の重点について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・これから入学式の時期となるが、皆様には子どもたちの前途をお祝いしていただきたい。
- ・公立小松大学については、今年も優秀な学生が250名入学することとなっている。また、市立高校については、公立小松大との連携の効果もあり近年格段にレベルが上がっている。今年には国公立大学に17名が合格したことは大変喜ばしい。
- ・4月からは小中連携の松東みどり学園がスタートする。県内で初めてと言える大きな挑戦であるが、学業・スポーツ・音楽・伝統文化などの面においても優秀な子供が育ち、大きな成果を

生むと思う。

- ・令和3年度は、明治期以降の教育の大改革とも言われている。小松市の子どもたちがさらに熱心に勉強して、心の面においても素晴らしい子に育つよう願っている。

○討議事項

- ・令和3年度の教育の重点について

〈議長〉

- ・議題「令和3年度の教育の重点について」説明をお願いします。

〈石黒教育長（パワーポイント資料に基づき説明）〉

- ・コロナ禍でVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字）時代と言われている。このような時代だからこそ、教育においても豊かさと新しい価値を創造することが大切である。「人」を教え育てることの大事さ、資質能力をどのような学びを通して育成していくかを考えることが必要。
- ・令和3年度の教育課題について、4つの視点でまとめている。まず「学力」の定着について、自主的に学ぶことにより自分自身で資質能力を身に付けることが大事。「特別活動」については、精一杯コロナ禍に立ち向かった子どもたち自身の力を、今後も学校教育に取り入れていく必要があると考えている。「学校生活」について、残念ながら不登校児童・生徒数は減らない。原因は複合的だが、原因を究明して適切な対策をとっていくことが大切。「教員」について、学校教育が大きく変わっている中、変化に対応できる人材育成をしていく必要がある。質の高い教育のための働き方改革の意義を学校に理解していただくことも必要。
- ・「学びの時代」、どのような教育活動を大事にしていくのか、それぞれの教育実践が子どもたちに何をもたらすのか、各校長がしっかりとビジョンをもって学校全体で共通理解を深めてほしい
- ・次に、大切にしていきたい小松の教育の視点と施策として、「GIGA スクールプロジェクト」を昨年の秋から進めており、学びを深め、論理的思考や主体的な学び、コミュニケーション能力の向上を目的として取り組んでいる。昨年度より義務教育学校松東みどり学園が中心になって、学びを広げる授業設計をしており、今後も協力校とともに研究の成果を発信していく。また、教員の研修に関して、小松市ではハイブリッド型の開発など県下でも大変恵まれた環境にある。課題としては、姿勢や視力といった健康に関すること、AUP（Acceptable Use Policy）、生徒自身の心構えなどを考えていかなければならない。
- ・不登校対策として、教育相談・専門相談やカウンセリング、ふれあい教室、訪問相談などを進めてきた。来年度は、モデルとして中学校2校で校内フリースクールを取り入れたい。経験の浅い教員へのコーチングや、子どもたちが魅力を感じる学校づくりも進めていく。
- ・社会とつながった「学び」も来年度の大きな目玉である。知識や論理が中心の教科書のキーワードから、日常生活に関連する知識、つまり社会とつながった学びを今後心がけていく必要がある。なぜ学びが必要なのかを理解する子どもが増えるよう、生き

た知識の獲得を組み込んだ学びや体験を実現したい。具体的には、SDGs を各学校でしっかり取り組んでいきたい。また、将来のためのキャリア教育も大切にしながら、体験的、活動的、感動的な学びを設定していく。

- ・教員の資質能力について、教員は人を教え育てるとともに、保護者や子どもと良好な人間関係を構築することも重要。教員である前に、人に共感し自己存在感を持てる人である必要があり、子どもに寄り添った教育を心がけていきたい。
- ・学習指導要領が目指すものは、学力ではなく子どもたちに必要な「能力」をつけ、それを高めていくことであり、その「能力」は、教えるものではなく学校が育てるものである。また、校長・教頭がどのような能力を付けていくべきなのかを考え、教職員とともに協議しながら実践していくことが人材育成にもなると考える。

<議長>

- ・委員の皆さんからご意見やご質問をいただきたい。

<中惣委員>

- ・様々な教育がある中で、親には教えられない、学校でしかできない教育もあると思う。教員の皆様にはお忙しい中とは思いますが、ぜひ子ども達にいろいろな経験をさせて人間力を高めていただければと思う。また、教員の資質能力の向上という点において、若手の先生方には様々な分野で経験を積んで頂きたいと思う。

<勝木委員>

- ・行事ができなかったり縮小されたりした中で、子どもたち自身が花火大会を企画したり、自分たちで「学校の日」を決めて学校をきれいにするなど、子どもたちの発想は豊かだと感じた1年だった。ある小学校の卒業式に伺ったが、校長先生も子どもたちの花火大会の企画に驚いたと仰っていた。保護者がお金を出し合うのではなく、空缶を収集することにより地域の人たちの協力も得て資金を集め、実現させたことを伺い、素晴らしいなと思った。自分たちで考えて行動し、先生方とも一体感や絆が生まれていたのではないかと思う。子どもたちを信じて任せてみるのも大切な教育なのではないかと思った。

<北村委員>

- ・「社会とつながった教育」の部分に大変共感した。社会とつながって生きていくために、先生方にはしっかり進めていっていただきたい。学校の視点だけではなく、地域や家庭、子ども達の視点も加味しながら、学校の役割を考えていかなければならないと感じた。子どもは社会全体で育てていくもので、学校はそれをサポートする一つの大きな手段ではないかと思う。社会で自立し集団の中で生きていくためには、人間力・生きる力を育てることが大切。このことを小中学校の先生方が理解・共有し、出来るだけ不登校の子どもを出さないようにしていただきたい。この活動の計画全てを1年で実現しようとせず、1年1年積み重ねてやっていっていただきたいと思う。

<吉原委員>

- ・来年度の教育の考え方としてよく整理されており、方向性が明確で分かりやすい。施策についても従来からのものに新たなものを取り入れ豊富で充実している。タブレット端末が1人1台配付されたが、教員の方の習熟度も少しずつ上げていっていただけたらと思う。これからひとつひとつ丁寧に成果に結び付けていっていただきたい。

<石黒教育長>

- ・子どもは千差万別であり、指導にも多様性という視点を持ちながら、その子に応じた適切な指導をしていきたい。不登校といじめが問題になっているが、いじめる方も悲しみを抱えている場合が多い。北村委員の仰るように、地域、保護者、学校が連携してその子に関わっていくことが大切。また、子どもの思いを聞いてあげることも大切。適切に着実に教育をしていくことが大切だと感じた。また、教育に対する行政からの支援が手厚いことに大変感謝している。

<議長>

- ・教員のキャリアアップのために、先生一人ひとりに計画的な目標を持たせることが大切。人事異動をどう考えていくのか、先生をどう育てていくのかという育成計画を作る必要があるのではないか。小松市方式を作るとよいのではないか。

<石黒教育長>

- ・先生のキャリアや指導力は計画的に積み上げていくことが大切であるので、しっかり考えていきたい。

<北村委員>

- ・子どもたちが人間力をつけてステップアップしていくということは、先生方も教師力を高めていかないと対応していけないということ。先生方には、社会や地域でいろいろな経験を積み、社会性や人間力を身に付け、様々な視点を持てるようになっていただきたい。

<吉原委員>

- ・民間企業でも社員教育は重視される分野であり、教員のキャリアアップ計画を作ることは必要だと思う。いろいろな職場を経験させることがその人の成長につながると考える。先生の場合は、違う職業というのは難しいかと思うが、社会のことを経験することも場合によっては必要になってくるかもしれない。

<勝木委員>

- ・教員にとって「こんな先生になりたい」と思えるモデルとなる人が身近にいることが大切ではないかと思う。ベテランの先生が若手の先生を惹きつけ、ベテランの先生から学ぶことができる仕組みがあるとよいのではないか。

<中惣委員>

- ・先生が各家庭を訪問していた以前よりも、先生と保護者の連携が薄れ、保護者が先生を頼ることも少なくなったのではと感じている。学力試験の点数にこだわるよりも、社会に出て強い心で生きていけるような人間力を育ててほしい。いろいろなことに対応できる強い子を育てる学校であってほしい。先生方には、教育の原点を思い出していただき、保護者と一緒に子供を育ててほしいと思う。

<北村委員>

- ・教員を志す人が、一定期間企業で研修する仕組みがあるとその経験が教師となってから活かされるのではないかと考える。また、松東みどり学園は、これから小松市の小中学校の模範となり、小松市の教育の凝縮した形になることを期待している。

<石黒教育長>

- ・社会構造の変化もあり、家庭訪問ができなくなるなど、教員と家庭との関係性の問題も大きいと感じた。市P 連とも話し合いを持ちながら連携していければと思っている。また、教員のなり手不足も課題である。教師を魅力のある職業としてアピールしていくことが大切。同時に、様々な課題を解決していくことも必要。今後も教育委員の皆様と連携して進めていきたい。

<議長>

- ・総合教育会議は、教育を多角的に議論しあえる大変良い機会であるので、今後も皆様にはリーダーシップを発揮していただきたい。

以上

○閉 会